

ICA-RUS REPORT 2014 に関するアンケート

<アンケートについて>

ICA-RUS REPORT 2014 をご清覧下さいましてありがとうございました。ICA-RUS では今後の研究計画検討や ICA-RUS REPORT の内容の参考にするため、ICA-RUS REPORT に関するアンケートにご協力頂ければ幸甚に存じます。

<記入上のご注意>

- アンケートは全部で3ページです。(ページ数に本紙は含めていません。)
- 選択形式の質問については、適切な番号を○で囲んで下さい。
- 自由記入の質問については、記入欄に具体的にご記入下さい
- アンケートの一部のみのご回答でも構いません
- ご回答の方法は以下の二種類をご用意しております。ご都合のよい方法をお選びください。
 1. ica-rus_report@nri.co.jp までご回答下さいましたアンケート用紙をお送りください。(PDF ファイル、WORD ファイルどちらでも構いません)
 2. 以下の<お問い合わせ先>に記載されている宛先にご回答下さいましたアンケート用紙をご郵送下さい。

<お問い合わせ先>

株式会社 野村総合研究所

社会システムコンサルティング部 岩瀬、吉本、佐藤

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-6-5 丸の内北口ビル

E-mail: ica-rus_report@nri.co.jp

問1 ICA-RUS REPORT 2014 における各項目の内容の分かりやすさについて、最も近いものを選んで下さい。(各項目で○は一つ)

	分かりやすい	どちらかと言えば分かりやすい	どちらとも言えない	どちらかと言えば分かりにくい	分かりにくい	読んでいない
第I部 ICA-RUS のアウトプット						
ICA-RUS における気候変動リスク管理の「戦略」(p.3~4)	1	2	3	4	5	6
分析ケース (p.5~6)	1	2	3	4	5	6
ICA-RUS の最終アウトプット (p.7~8)	1	2	3	4	5	6
各研究活動の個別アウトプット (p.9~10)	1	2	3	4	5	6
第II部 個別研究成果の紹介						
リスクインベントリの改善 (p.13)	1	2	3	4	5	6
洪水被害の予測(定量的なリスク評価の例) (p.14)	1	2	3	4	5	6
ネガティブ・エミッション (p.15)	1	2	3	4	5	6
土地・水・生態系等の相互作用 (p.16)	1	2	3	4	5	6
気候変動に対する市民の考え方 (p.17)	1	2	3	4	5	6

問2 ICA-RUS REPORT 2014 における各項目の説明・情報の詳細さについて、最も近いものを選んで下さい。(各項目で○は一つ)

	詳細過ぎる	どちらかと言えば詳細過ぎる	適切である	どちらかと言えば簡略過ぎる	簡略過ぎる	読んでいない
第I部 ICA-RUS のアウトプット						
ICA-RUS における気候変動リスク管理の「戦略」(p.3~4)	1	2	3	4	5	6
分析ケース (p.5~6)	1	2	3	4	5	6
ICA-RUS の最終アウトプット (p.7~8)	1	2	3	4	5	6
各研究活動の個別アウトプット (p.9~10)	1	2	3	4	5	6
第II部 個別研究成果の紹介						
リスクインベントリの改善 (p.13)	1	2	3	4	5	6
洪水被害の予測(定量的なリスク評価の例) (p.14)	1	2	3	4	5	6
ネガティブ・エミッション (p.15)	1	2	3	4	5	6
土地・水・生態系等の相互作用 (p.16)	1	2	3	4	5	6
気候変動に対する市民の考え方 (p.17)	1	2	3	4	5	6

問3 気候変動問題を考えるにあたって、あなたは以下の項目の重要性をどのように感じていますか。各項目について最も近いものを選んでください。(各項目で○は一つ) ※ICA-RUS REPORT 2014 をご覧になる前後で認識に変化があった場合、ICA-RUS REPORT2014 をご覧になった後の認識をご回答下さい。

	非常に重要である	やや重要である	どちらとも言えない	あまり重要ではない	全く重要ではない	考えたことがない・分からない
不確実性を考慮した緩和目標を設定し、それに応じた適応強度(コスト)を検討すること (p.3~4)	1	2	3	4	5	6
リスク管理戦略の検討にあたり気候工学も視野に入れること (p.3~4)	1	2	3	4	5	6
気候変動リスクを網羅的に、因果関係も含めて把握すること (p.13)	1	2	3	4	5	6
気候変動対策実施に伴う波及的リスクも含めてリスクの全体像の把握をすること (p.13)	1	2	3	4	5	6
気候変動リスクを日本だけでなくその他の地域の影響も含め地球規模で把握すること (p.14)	1	2	3	4	5	6
BECCS 導入の実現可能性や課題を検討すること (p.15)	1	2	3	4	5	6
土地・水・生態系等の相互作用を考慮した検討を行うこと (p.16)	1	2	3	4	5	6
気候変動に関する市民の考え方・意思決定の仕方について理解を深めること (p.17)	1	2	3	4	5	6

問4 ICA-RUS REPORT 2014 をご覧になって、以下の各項目に対するあなたの認識は変化しましたか。各項目について最も近いものを選んで下さい。(各項目で○は一つ)

	以前よりも重要と感じるようになった	どちらかと言えば以前よりも重要と感じるようになった	認識は変化しなかった	むしろ以前ほど重要とは感じなくなった
不確実性を考慮した緩和目標を設定し、それに応じた適応強度(コスト)を検討すること (p.3~4)	1	2	3	4
リスク管理戦略の検討にあたり気候工学も視野に入れること (p.3~4)	1	2	3	4
気候変動リスクを網羅的に、因果関係も含めて把握すること (p.13)	1	2	3	4
気候変動対策実施に伴う波及的リスクも含めてリスクの全体像の把握をすること (p.13)	1	2	3	4
気候変動リスクを日本だけでなくその他の地域の影響も含め地球規模で把握すること (p.14)	1	2	3	4
BECCS 導入の実現可能性や課題を検討すること (p.15)	1	2	3	4
土地・水・生態系等の相互作用を考慮した検討を行うこと (p.16)	1	2	3	4
気候変動に関する市民の考え方・意思決定の仕方について理解を深めること (p.17)	1	2	3	4

問5 ICA-RUS REPORT 2014 で参考になった点・改善すべき点がありましたら、ご自由にお書き下さい。
また併せて、今後のICA-RUS REPORT やICA-RUS の研究内容に対するご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書き下さい。

問6 気候変動に関する科学的な研究情報には将来に関する不確実な情報が必ず含まれます。このような科学的な研究情報は、あなたのお仕事の中でどのように活用できると思いますか。また、活用する際に不確実性を含むことがどの程度問題になると思いますか。ご自由にお書き下さい。

問7 ICA-RUS では、本レポートの発展版として、今年度末に地球規模の気候変動リスク管理に関する報告書（ICA-RUS リスク管理戦略第1版 ※ICA-RUS REPORT 2014 第I部参照）を作成予定です。
その報告書の読者として、どのような人が適切だとあなたは思いますか。具体的に推薦すべき方（〇〇省 〇〇局、〇〇財団等の機関名および適任者のご役職・お名前）がいらっしゃれば、お教え下さい。

最後に、ご回答者様についてお伺いします。

参考問1 あなたのご所属について、最も近いものを下記から選んでください。（〇は一つ）

1. 官公庁 2. 自治体 3. 企業 4. NPO・NGO 5. 大学・研究機関 6. その他（ ）

参考問2 あなたのご年齢を下記から選んでください。（〇は一つ）

1. 20歳未満 2. 20歳～29歳 3. 30歳～39歳 4. 40歳～49歳
5. 50歳～59歳 6. 60歳～69歳 7. 70歳以上

参考問3 あなたのご所属について、お差支えない範囲で以下の各項目をご記入下さい。

所属機関名	
所属部課名	
役職	
お名前	
電話番号	
e-mail	

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。